

2 豊島新時代に向けた都市づくり

消滅可能性都市から持続発展都市へ

平成26年5月8日、日本創成会議（民間の有識者会議）により豊島区は23区で唯一「消滅可能性都市」として発表されました。区では直ちに、区長を本部長とする緊急対策本部を設置し、それまで推進してきた「選ばれるまちづくり」を加速化するさまざまな対策を打ち出しました。これからも安全・安心で価値あるまちづくりを展開するとともに、首都東京の自治体としての役割を果たすという視点のもと、4つの対策の柱を掲げて持続発展都市づくりを進めていきます。

次代を担う子どもたちや女性人口は緩やかに増加していますが、この発表を一つの警鐘と受け止め、**ピンチを飛躍のチャンスに転換！**

消滅可能性都市
若年女性(20～39歳)が2040年までに50%以上減少すると推計された自治体(全国で896市区町村、全体の49.8%)。若年女性が50%以上減少すると、出生率が上昇しても人口の維持は困難であるとされています。

対策の4つの柱

①女性にやさしいまちづくり
出産前から切れ目のない子育て支援を行い、「産みたい」「育てたい」を横断的に支援します。

②高齢化への対応
高齢になっても、元気で、生きがいをもって、安心して暮らすことができるまちづくりを推進します。

③様々な地域との共生
交流自治体との連携を深め、都市と地方における相互補完モデルの構築を模索します。

④日本の推進力
豊島区が誇る芸術・文化の魅力を世界に向けて発信し、人と産業を惹きつけ、世界中から人が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進します。

- としまF1会議
- としま鬼子母神プロジェクト
- 女性の起業支援
- リノベーションまちづくり
- 圏域外特養ホームの検討
- 日本版CCRC構想の推進
- 国際アート・カルチャー都市構想
- など

安全・安心創造都市

文化創造都市

豊島区は、日本一の高密都市でありながらも四季の彩りに包まれながら、安全・安心で快適に暮らすことができ、多様な文化資源を有機的に活用することで賑わいと活力にあふれた、誰もが住みたい、訪れたいと思うまちづくりを実践してきました。

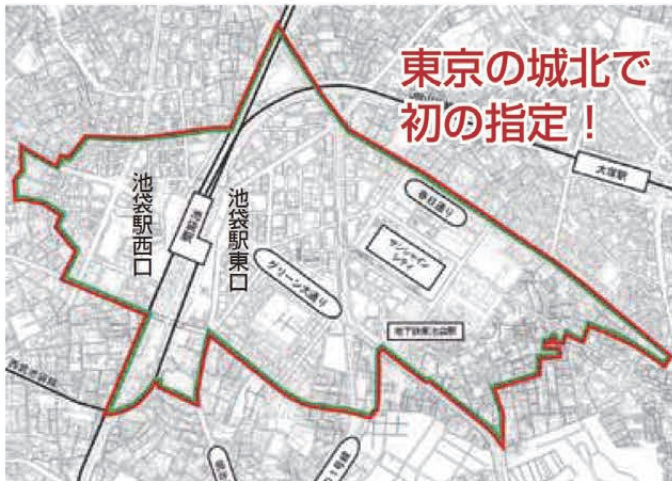


新庁舎整備から連鎖的に広がる池袋副都心の再生

新庁舎整備を契機として、池袋副都心の再生が連鎖的に広がっています。旧庁舎跡地周辺の開発や造幣局移転後の跡地活用、池袋西口駅前街区のまちづくりなど、国家的なプロジェクトの仕組みを活かしながら、世界都市東京の中で個性と存在感を発揮する国際アート・カルチャー都市として、ダイナミックに変貌していきます。

特定都市再生緊急整備地域の指定 (H27.7.24)

都市の国際競争力の強化を図る上で特に有効な地域として政令で指定された地域で、池袋駅周辺地域（143ha）が都内で5地域目として指定されました（全国では12地域）。



国家戦略特区の区域拡大 (H27.8.28)

産業の国際競争力の強化や国際的な経済活動の拠点の形成を推進するため、国が定める特別区域で規制を緩和。区域の拡大により豊島区も国家戦略特区となり、都市の魅力向上等に向けた規制緩和メニューの活用を進めます。

池袋駅周辺地域

(旧庁舎跡地開発)

- ・都市機能の更新にあわせた文化・芸術等の育成・創造・発信・交流などの機能強化により、国際アート・カルチャー都市の形成



(池袋駅西口地区)

- ・駅とまちとの一体的な空間づくりを進め、「ひと」が主役の魅力と賑わいにあふれた新たな池袋西口のゲートを創出



【現状】

第一次指定 (H26.5.1)

東京都では 9 区

第二次指定 (H27.8.28)

東京都は全域に拡大

8月28日
豊島区も
国家戦略特区に！